

船舶事故等調査報告書

平成27年8月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2015横第29号
事故等種類	運航不能（電源喪失）
発生日時	平成27年3月2日 17時12分ごろ
発生場所	浦賀水道航路 第2海堡灯台から真方位155° 3.15km付近 （概位 北緯35° 17.18′ 東経139° 45.36′）
事故等調査の経過	平成27年3月6日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 WAN HAI 316（シンガポール国籍）、27,800トン
船舶番号、船舶所有者等	9342700（IMO番号）、WANHAI LINES PTE LTD
乗組員等に関する情報	船長（中華人民共和国籍）、免状不詳
死傷者等	なし
損傷	なし
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか21人（中華人民共和国籍11人、台湾籍4人、インド籍3人、マレーシア籍3人）が乗り組み、水先人が水先し、京浜港東京区に向けて浦賀水道航路の北航レーンを北西進中、平成27年3月2日17時12分ごろ、並列運転していた発電機2台のうち1台が停止して電力不足となり、保護装置が働いて船内電源が喪失し、主機が停止して航行不能となった。</p> <p>本船は、17時17分ごろ、予備の発電機2台を手動で始動して船内電源を確保した後、主機を始動し、17時24分ごろ航行を再開したが、17時20分ごろから約12分間、浦賀水道航路の中央から左の南航レーンに進入した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北北東、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏</p>
その他の事項	<p>本船の船内電源は、運転中の発電機からの供給電源に異常があると、保護回路が働いてACB（気中遮断機）を遮断し、運転中の発電機を保護するとともに、予備の発電機が自動的に始動してACBを投入し、船内電源を補う仕組みになっていた。</p> <p>本船は、原動機で駆動される発電機を4台装備しており、通常の狭水道通過時には2台を並列運転して、他の2台を予備発電機としていたが、本インシデント時、予備発電機が始動しないよう自動始動スイッチを手動に切り替えて原動機の潤滑油こし器の掃除を行っていた。</p> <p>運転中に停止した発電機は、原動機の調速機に潤滑油漏れを生じて停止していたが、船内電源が確保されたのち、修理が行われた。</p>

<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり あり なし</p> <p>本船は、浦賀水道航路を北西進中、運転中の発電機が停止した際、予備発電機が始動しなかったことから、船内電源が喪失して主機の運転ができなくなり、運航不能となったものと考えられる。</p> <p>本船は、予備発電機の自動始動スイッチを手動に切り替え、原動機の潤滑油こし器の掃除を行っていたことから、運転中の発電機が停止した際、自動的に予備発電機が始動しなかったものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本インシデントは、浦賀水道航路を北西進中、運転中の発電機が停止した際、予備発電機が始動しなかったため、船内電源が喪失して主機の運転ができなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発電機等の保守点検作業を行う際は、航行海域等を考慮し、浦賀水道航路等、狭い航路を航行する際には、緊急事態に備え、予備発電機が自動的に始動できるような体制を維持すること。